

リスクコミュニケーション

リスク評価やリスク管理の全過程において、リスク評価者、リスク管理者、消費者、事業者、研究者、その他の関係者の中で、**相互に情報の共有や意見の交換を行うこと。**

食品安全委員会

リスク評価

食べても安全かどうか
調べて、決める

厚生労働省、農林水産省
消費者庁、環境省等

リスク管理

食べても安全なように
ルールを決めて、監視する

- ・機能的に分担
- ・相互に情報交換

消費者庁

関係省庁及び地方公共団体等との
連絡調整、企画・運営等

2 リスクコミュニケーション

リスク分析(リスク・アナリシス)の3要素のうち、**リスクコミュニケーション**とは、前述のリスク評価、リスク管理の全ての過程における**関係者間**(消費者、生産者、流通・加工業者、行政関係者等の間)で、**情報及び意見交換を相互に交換**することをいう。

現在、食品安全関係府省が連携して行うリスクコミュニケーションは、**消費者庁が事務の調整を担い、企画及び運営**を行っている。

加えて、消費者庁は、独自に地方公共団体や事業者が実施するリスクコミュニケーションに対しても支援を実施している。



3 消費者庁が取組むリスクコミュニケーション ①

消費者庁が行ってきたリスクコミュニケーションは、平成23年に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、食品中の放射性物質のテーマが中心となっている。

その他では、消費者の関心が高いテーマ（健康食品、食品安全全般）に取り組んでいる。



○ テーマ別開催回数実績一覧

主なテーマ	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	テーマ別合計
食品中の放射性物質	45	175	99	99	100	100	108	136	862
牛海綿状脳症(BSE)	—	2	2	—	—	2	—	—	6
健康食品	3	—	3	2	2	2	5	8	25
輸入食品	—	3	—	—	—	1	—	—	4
農薬	—	—	—	1	2	—	—	—	3
食中毒	—	—	—	—	4	—	—	—	4
食品添加物	—	—	—	—	—	1	1	1	3
食品安全全般等	—	—	—	—	3	3	21	26	53
年度別合計	48	180	104	102	111	109	135	171	960

ー 正確な情報提供のための各種ツールの制作 ー

■ 放射性物質に関して



**解説冊子
「食品と放射能
Q&A」**
23年5月～改訂第12版
約21万冊(約1千カ所)
※福島県内には基金を
活用し全戸配布(約70
万冊)



**解説冊子
「食品と放射能
Q&Aミニ」**
27年3月～改訂第4版
「食品と放射能Q&A」
を踏まえ、最新の情報
を盛り込み分かりやすい
内容とした簡略版

**解説冊子
「食品と放射能Q&Aミ
ニ」外国語版**
改訂第4版「食品と放射能Q
&A」を中国語、英語、韓国
語でも配布

■ 健康食品に関して



**解説冊子
「健康食品Q&A」**
Q&A形式で、健康食
品を利用する際に注意
するポイントをまとめた
パンフレットを配布



**解説冊子
「健康食品5つの
問題」**
大事な点をコンパクトに
まとめ、携帯性を高め
たリーフレットを配布

■ 食品安全に関する総合情報サイト

平成29年6月、消費者庁HPに「食品安全に関する総合情報サイト」開設。



～ 食品中の放射性物質リスクミ会場から ～

① 会場アンケートの高評価をどうみるか。

→ どの会場でも80%超の評価

＜自由記述や会場からの意見から＞

- ・放射線の説明から始まり何も知識がなかったのでよかった。
- ・国、県で実施している内容がわかってよかった。
- ・放射線や基準値等についての理解度にかかなりの幅があることがわかった。
- ・講演、応答してくれた方の一所懸命な対応が良かった。
- ・関係機関の担当者から直接説明を聞けるのは良かった。

② 大規模会場での開催をどう考えるか。

→ 少数の質問者が、大多数の参加者の理解の機会等を阻害

③ 時間・場所を越えた奇妙な一致への対応

→ 特定の学説・意見の開陳。(時間、場所を越えた奇妙な一致)



(参考: 様々なご批判を受けつつも……)

○ A県在住 消費者ツイッター(2011年)

「御用の匂いがプンプン「放射能のこと 私たちの食は大丈夫?」「私的にはよくわからない講演者です。御用?」

○ B県 個人ブログ(2011年)

「この辺り程度の線量であればあれば、もちろん除染して接する機会を減じることは大事だが、体内に取り込むことによって生じる内部被ばくは、より深刻だとおっしゃいました。放医研の先生の見解とは違いますし、さもありません。」「放医研の話では、大人のほうが子どもよりも影響を受けるとパワポ上のみで示した数字のマジックを使って説明されていましたが、消費者庁の見解は真逆です。」「これまでの放医研の3人の講師の、大丈夫、安全の連呼に比べたら、受け止めるべきことは受け止め、何とか打開していく努力をしていくしかない。これで安全だなどとはいうつもりではないというスタンスの話でありました。」

○ 機関紙記事(2015年)

「食品に関するリスクコミュニケーション(福島・いわき市)「福島の米は安全!」いわき市で開催された国の「食品に関するリスコミ」。まだ不安を抱えている参加者への「情報提供」は、詐欺師のように安全を説明し、安心させる場でした。」